

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

学校名	佐賀大学教育学部附属中学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・「学力の向上」については、教員、生徒ともに、AARサイクルを位置付ける取り組みを共有することで、各教科等における協動的な学びや探究的な学びを実践した。ICTの利用に関しては、ICT機器を利用することが「考える力」を高めるというより、考えるためのツールとしての利用方を検討していく必要がある。</p> <p>・「健康・体づくり」について、健康増進や体力づくりなど意識は高いものの、実際に運動している時間は多くなかった。今後は、部活動が廃止されることから、運動を行う時間や場所についても検討するとともに、体育の授業を通して、運動と健康との関係について、引き続き啓発していきたい。また、「健康において運動、食事、睡眠は大切」と答えている生徒の割合に対して、実際の睡眠時間が確保できている生徒の割合が少ない。生徒会の企画と関連付けて、啓発活動を実施していく。</p> <p>・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」について、目標値は達成しているものの、勤務間インターバルに課題が見られる。部活動廃止にともなう、放課後の時間の有効活用や、会議時間の削減など、資料や情報共有の方法を工夫しながら業務改善を検討していく。</p> <p>・「研究」については、「未来をひらく共創する学び手の育成～エージェンシーを育む方策を通して～」の実現に向けて、研究推進部を中心に全職員でAARサイクルをまわす取組を実践したことで、AARサイクルなどの言葉を教師と生徒の間でよく共有されている。次年度は研究のまとめになるため、生徒のエージェンシーがどのように育成されたのかを検討したい。</p> <p>・その他の項目については、概ね目標値を達成している。学校教育目標の実現に向けて、引き続き継続して取り組んでいく。</p>

2 学校教育目標	本校の使命に応じて、高いレベルで自律し、共同することができる次世代リーダーを育成する
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>① 未来をひらく共創する学び手の育成を目指す。</p> <p>② 学校教育全体を通して、命や人権を大切にすることを指導を行い、生徒の心と人権感覚の育成を目指す。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○教科の本質に迫る授業実践 ○各教科等の学びの場面で、生徒が自ら目標を設定し、行動し、振り返るAARサイクルを回す手立てをとることによる、資質・能力の育成 ○学びの意味や価値を理解し、主体的・自律的に学ぶ生徒の育成	○指導計画に基づき、教科の本質に迫る授業実践を行うとともに、適切な評価問題により得られた結果などを次期計画の修正に生かすことができる教員90% ○育成を目指す資質・能力を育成するために、各教科等の授業にAARサイクルを位置付けている教師95% ○各教科の学びで、課題に対して自ら目標を設定して取り組み、その取り組みを振り返ることができる生徒90% ○学校での学びが、学ぶ意欲を高め、学ぶ意味や価値を実感できるものになっている生徒90%	・各教科における教科の本質に迫るための、単元指導計画及び年間指導計画の見直し。 ・単元や題材をとおして、生徒自身が見通しをもち、取り組み、振り返ることができる学習過程の検討及び実践。 ・資質・能力の育成に資するAARサイクルの位置づけの検討及び実践。 ・生徒に選択の余地を与え、主体的・自律的に学ぶことができる授業づくり。 ・他教科の授業を見合う授業参観WeeeeKの実施
	●ICT活用を通じて、個に応じた指導方法、学習時間、教材等を豊かで柔軟に提供する。	○各教科等の授業において、計画的にICT機器を活用した授業で、個に応じた指導を実践できる教員90% ○ICT機器を活用して自分の理解度に応じた学習(復習や発展など)ができたと感じる生徒80% ○生徒用パソコンを利用することで情報を処理したり、表現したりする力が高まったと感じる生徒90%	・教科固有の見方・考え方を働かせるために、ICT機器や生成AIを効果的に活用する学習指導の実践 ・生徒用パソコンでの教材の提示を工夫し、個に応じた学びの場の設定 ・課題に対して考えを深める場面で、協動的な学びの場の設定 ・探究的な学びにおいて、情報を適切に処理したり、表現したりする力を高める指導の工夫
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒85%以上	・各教科の授業で、お互いが認め合えるような場の設定 ・学年職員のローテーションにより、組織的かつ計画的な道徳教育の実施 ・人権週間において、命や人権について考える機会を設置 ・夏季に人権・同和教育に関する職員研修を実施
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ●計画的、継続的な支援体制の充実	○いじめの防止など(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的に対応できていると回答した教員、生徒ともに85%以上	・心の扉(月1回)、いじめ実態調査(年3回)、教育相談等による生徒の状況の把握 ・生徒主体生活による人権学習の実施、生徒会と連携し、いじめゼロ宣言を活用するなどして、いじめを許さない心の育成
	○エージェンシーを発揮する場としての学級活動や生徒会活動、学校行事の充実	○「自分たちの手で学校を創っている」について肯定的に回答した生徒80%以上	・生徒主体による学級独自の係活動のための実施 ・生徒会活動について説明する対面式の設定 ・年2回の生徒総会を開催、自治の意識の醸成 ・学校行事について全校生徒が意見を言うことのできる場の設定と、生徒主体による各実行委員会の運営 ・生徒と教師が共にAARサイクルを回すことによる共創の姿勢の重視
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	○健康・体づくりに運動習慣は大切と考える生徒80%以上	・運動習慣形成に関する意識調査 ・運動時間や過当たりの運動頻度の実態調査 ・調査結果と体力の関係を説明し、運動習慣の改善を推奨
	●基本的な生活習慣の意識化と定着	○「健康において運動、食事、睡眠は大切」と考える生徒90%以上	・保健室来室時における生徒の実態把握 ・長期休業前の保健指導や、学年友友会を通じた家庭への啓発 ・生徒会健康づくり部の企画「続・シエスタ大革命」等と連動した啓発活動および実践化
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進 ○変形労働時間制を活用した時間外勤務の削減	○時間外勤務を削減できるよう努力した職員80%以上。 ○勤務間インターバル11時間以上取ることのできた職員80%以上。	・退勤時間の掲示、アナウンス ・定時退勤日の設定 ・業務内容精選、見直しのための情報共有 ・会議資料等共有の仕方の工夫 ・勤務間インターバルを導入し、退勤から次の出勤までの休憩時間を11時間以上を確保する ・校務支援システム等を活用した業務改善

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○教育実習	○実習生の指導技術の向上や達成感を保障する実習指導の充実 ○大学との連携	○教育実習後のアンケートで達成感・充実感があると回答した実習生80%以上 ○教育実習中の大学教員による視察・指導の達成80%以上	・指導教員による魅力的な教職モデルの垂範 ・実習日誌等を通じた、実習生の達成感や成長の様子の確認及び指導・助言 ・大学教員との情報共有
○研究	○すべての教育活動におけるエージェンシーを発揮・育成するためのAARサイクルの設定 ○総合的な学習の時間や特別活動におけるエージェンシーを発揮・育成するための場の設定 ○エージェンシーを発揮・育成するための教師エージェンシーの検討	○すべての教育活動において、生徒が自ら目標を立て、行動し、振り返ることをくり返すAARサイクルを位置づけ、エージェンシーの育成を発揮・育成することができた教師90% ○学校での様々な活動の中で、AARサイクルを回しながらウェルビーイングの実現に向けて行動できた生徒80% ○総合的な学習の時間のC-Timeや特別活動において、生徒のエージェンシーを発揮・育成する場であることを意識し、対等な立場で共創するプロセスを重視した教師80% ○総合的な学習の時間のC-Timeや特別活動において、生徒と生徒や、生徒と教師が対等な立場で対話を重ね、活動を創り上げていったと実感する生徒80% ○生徒のエージェンシーを発揮・育成するため、対話を重視したり生徒に選択権や裁量権を与えたりした教師90%	・教師と生徒が研究に関するビジョンを共有する場の設定 ・あらゆる教育活動でAARサイクルを回す手立ての検討及び実施 ・エージェンシーの発揮・育成を実感するリフレクションのあり方の検討及び生徒インタビューの実施 ・対話を重視したボトムアップ型の職員研究会の実施。 ・生徒にわかりやすい言葉でのエージェンシーの概念の共有。「やればできるMIND」「自分分た化DOING」「やり遂げるGUTS」という合言葉の設定